

研究室紹介

福田研究室



私たちの学ぶ福田研究室は、バイキンマンが好きなおちゃめな福田先生の「ほめてのばす」方針のもと、声楽の勉強をしています。

福田研究室の大きな行事と言えば、一年に一度公演しているオペラがあります。

近年は学生企画支援事業にも選ばれ、今年は「メリー・ウィドー」を予定しており、現在も準備中です。

このオペラは研究生だけでなく、多くの学生そして諸先生方や学校の方々を支えられて毎年公演することができています。一番初めに音大でもないのに、この小さな大学の小さな音楽科の小さな研究室を中心にオペラをやろうと考えた福田先生が関わったことです。そうした機会を与えて下さり、指導して下さる福田先生に感謝の気持ちを忘れずに、私たち研究生は日々研鑽を積んでいきたいと思っています。

記事：山崎文子（大学院音楽教育専修1回生）

クラブ紹介 ギター・マンドリンクラブ

私たちギター・マンドリンクラブは現在38名で活動しています。部員のほとんどが初心者でしたが先輩からの丁寧な指導を受けて徐々に弾けるようになりました。先輩、同回生、後輩との関わりを通して自分たちの音楽を作っています。

1年間の活動でもっとも大きな目標は毎年12月に行っている定期演奏会で、夏ごろから本格的に定期演奏会に向けての練習が始まります。より良い演奏を聴いていただくため、また自分たちが演奏会を楽しむことができるよう日々練習に励んでいます。



また、定期演奏会以外にも学内や外部からの演奏依頼を受け、幼稚園や小学校、老人会や地域のイベント会場などで依頼演奏会を行っています。今年は12月14日（金）18：30～奈良県文化会館国際ホールにて第41回定期演奏会を行います。マンドリン音楽にはあまりなじみの無い方が多いとは思いますが、是非一度私たちの演奏を聴きに来てください。

練習 月（16:30～18:00）、水・土（13:00～16:00）、学生会館2Fにて行っています。（来年より部室移動）

記事：曾和 恵（教育・発達基礎コース3回生）

インターンシップに参加して学んだこと

私が奈良県インターンシップに参加した理由は、就職をする前に一定期間、職場で社員さんと同じように働いてビジネスマナーや責任感、働く事の意味を学びたいと思った為です。

私が実習先に選んだ職場はケアハウスです。以前から介護関係にも興味があり、今後具体的にどのように就職活動をしたらよいか、また介護をするにあたっての苦勞などを職員さんに聞きたいと思った為にお願いしました。まず、インターンシップの前に職場を訪問した時に凄く感じたのが、家のように馴染み易い雰囲気であり、入り口には利用者さんの家族に対して「心遣いはいらぬです」と紙が張っており、みなさんにとって本当に良い職場でした。

お仕事として、前日の申し送りから始まり、施設内の掃除、ラジオ体操、昼食の前に利用者さんへの声かけ、昼食の準備、食器洗い、利用者さんと職員さんとコミュニケーション、利用者さんを連れての買い物、ふるさと喫茶という施設内での喫茶店の準備、また私の実習の時にちょうどお祭りがあり利用者さんをお祭りに連れて行き、クラブ活動では習字やぬり絵、折り紙などをし、また利用者さんが詩吟を習っている所に参加させていただいたりもしました。

実習をさせていただいて、インターンシップの事前研修会で学んだビジネスマナーである笑顔や、挨拶、お辞儀、言葉遣いなどが本当に大切だなと感じました。また、コミュニケーションの大切さが一番感じました。積極的に職員さんや、利用者さんに話しかけ、それに瞬時に対応をし、仕事上の話だけでなく日常会話も大切に信頼関係を築く事を心がけました。

介護では体力的にも大変ですが、職員さんのお仕事を拝見して、利用者さんの体の機能改善や、持っている力を伸ばす為に利用者さんが出来る限りの事は自分自身でしていただくように見守り、本当に出来ない所だけを介助する事に気づきました。

インターンシップに参加し、自分が興味を持っていた職場をさらに詳しく知る事が出来、また働く事の大変さ、職員同士も楽しめる環境や気配りや思いやり、臨機応変な対応が大切だと学びました。この経験は、どこへ就職するにあたってでも大切であり、全てが自己責任で、報（報告）・連（連絡）・相（相談）をきちんと実行しようと思いました。インターンシップで学んだ事を生かして就職活動を頑張ろうと思っています。 記事：石井 操（科学情報教育コース 3回生）

『日本留学事情』

本学在学中の留学生に日常生活で感じたことを書いていただきました。

私が見た奈良、そして日本

Sighinas Mihaela Lacramioar（ルーマニア）

私は留学することに誰にとっても幸せな時も寂しい時も両方あると思います。留学する前に本から想像してきた日本が本物ではないと、今は分かるようになりました。日本ぐるみの風景やひとびとの様子、文化の要素や日常茶飯事は全身で感じられることだと思います。異文化の中で生活を始めて言語から食べ物、空気まで、身のまわりにあつという間にか全部変わります。その時からこそ自分の生まれ育ってきた文化との相違と類似がだんだん見えていきます。それをよく理解するために私は文化を生きていることが必要だと思います。日本社会に溶け込みつつ自分の考えも振る舞いも変わった気がします。



（筆者：左）

私は奈良に来て本当によかったと思います。最初に全然知らない町に着いて、知らない道を歩いて、赤の他人にしか囲まれていて、心の中に不安な気持ちがいっぱいありました。しかし少しずつ慣れてきて近所の人の笑顔とか、寮の庭で見かけられた鹿さんの姿とか、奈良町の魅力的な雰囲気とか、奈良公園のうっそうと茂った緑とか、浮見堂や「奈良七重七堂伽藍八重ざくら」の教えきれないお寺などが完全に身に染み込みました。奈良が田舎だとしても思いません。奈良町の静けさや古い匂いに飽きない上にいつも旅行から帰って奈良公園を見つけると落ち着くのです。

一年間で熊本から東京まで足を延ばしてさまざまなところへ観光に行きました。その旅行によって日本の歴史、文化、発想等に関する知識を深めることができた上に大切なことを発見できました。つまり、ところよりも一緒に行く人との作られる思い出がもっと大事だという教訓でした。それは一年間で行ってみたいところを全部見ることができないからです。「ああ、それも、あれも行ってみたいのに」という悔しい気持ちではなく同じ体験を誰かと分かち合う気持ちがふさわしいと思います。例えば、地元民と一緒に見物するとそのところに貴重な趣を添えるではないか。文化というのはいろいろなところに染み入っているが、人の中にも深く存在することだと思います。

もう秋なのです。そろそろ帰国するけれども、胸が作った思い出でいっぱいです。ここに過ぎた時間をかけて忘れられません。身についた考えも振る舞いも知識も、そして理解できたこともルーマニアに生かしていきたいと思っています。